

会 議 録

会議の名称	平成24年度第1回茨木市地球温暖化対策推進委員会
開催日時	平成25年2月12日（火） 午後3時 開会 ・ 午後4時30分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館3階会議室
委員長	玉井 昌宏
出席者	磯崎 強志、今堀 洋子、加藤 浩幸、鈴木 眞由美、田中 久雄、 玉井 雅人、玉井 昌宏、西島 貞夫、藤田 紫、村瀬 径介、 山口 容平、山下 定夫 (12人)
欠席者	なし (0人)
傍聴人	3人
事務局	田中産業環境部長、松本環境政策課長、 松山環境政策課長代理兼政策係長、井澤職員 (4人)
議題（案件）	1 議題（報告案件） (1) 茨木市地球温暖化対策実行計画の推進状況について 2 その他
配布資料	1 茨木市地球温暖化対策推進委員会委員名簿 2 茨木市地球温暖化対策実行計画の推進状況について 3 平成25年度からの茨木市地球温暖化対策実行計画の推進体制について(案) 4 茨木市地球温暖化対策実行計画における評価指標例 緑のカーテン リーフレット

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	開会
事 務 局	事務局から報告 ・委員の交代について 人事異動により大石ひとみ委員及び黒川裕之委員が職を離れられたことにより、それぞれ田中久雄委員及び山下定夫委員に交代された。 ・事務局出席者自己紹介
	1 議題 (1) 茨木市地球温暖化対策実行計画の推進状況について 事務局より説明 ・“まちの姿”ごとの具体的な取り組み状況について
委 員 長	ご自由にご意見をいただきたい。
F 委 員	計画(案)の議論をしてから一定の時間が経過したが、その間市は何を決め、何を実施したのか。取り組むべき内容についても、委員会で議論したか。
事 務 局	計画策定にあたって、“まちの姿”及び重点的な取り組みについては委員会で議論いただいた。今回報告させていただいた取り組み内容は、“具体的な取り組み例”として例示してあったものである。
H 委 員	それぞれの進捗状況について、○なのか△なのか×なのか、点数付けというか自己評価するようにはできないか。
事 務 局	23年度に計画を策定し、今年度4月から取り組んでいる。ざっと取り組み内容を報告させていただいたが、今後、推進していく指標となる項目について検討し、何ができて何ができていないかを検証し、ふさわしい指標を設定し進行管理をしていきたいと考えている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
C 委 員	どのような取り組みを実施すれば、どれだけ二酸化炭素排出量が減少するといった数字を、全ての取り組みに関連づけられるのか。
F 委 員	削減量の積み上げ計算は、計画策定時には一定行ったが、取り組み結果がどれだけの削減効果につながったのかはわからない。
K 委 員	最新の排出量は把握しているのか。
事 務 局	統計資料の公表が遅れることもあり、最近の数字として2009年度の排出量は、ざっくりした計算ではあるが把握している。
K 委 員	2009年は前年と比較して、増えたのか、減ったのか。
事 務 局	やや増加している。
B 委 員	今後も総排出量などについては、見える化する方法はあるのか。
事 務 局	公表されている統計資料を活用し、把握していく。
A 委 員	省エネナビモニターの取り組みについて、どのような世帯人数で取り組んでもらっているのか。また、削減量や参加いただいた方の評価としては、どのようなデータがあるか。
事 務 局	世帯人数については正確な手持ち資料が無いが、2人から4人程度の世帯で取り組んでいただいた。平均削減量としては、前年度比で17%程度削減したと報告を受けている。
F 委 員	省エネナビの貸し出し台数など、市としては何か目標数値を持っていたのか。持っておれば、それに対する評価ができないか。また、例えば高効率給湯器補助金についてはどうか。
事 務 局	省エネナビは20台保有しており、最大の貸し出し台数としては20台になる。高効率給湯器等補助金は平成24年度からの事業で、予算

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	の範囲内で現在募集中であるため、評価する数値等はない。
K 委員	高効率給湯器の補助制度は、人気が高いのか。
事務局	財政的な制約はあるが、多くの申請をいただいている。
K 委員	太陽熱温水器の申請が1件のみだが、何か理由はあるのか。
事務局	認知度が低いのか、設備のイメージが原因なのかと考えている。今後、効果等をPRしていきたいと考えている。
E 委員	製造メーカーが減っているのも一因である。
B 委員	補助金制度は、再生可能エネルギー・省エネルギー設備の普及を進めるための第一歩の施策であり、他にも普及を進めるための施策は沢山ある。そういった議論を地球温暖化対策実行計画策定時にもした。難しいと思うが、そういう取り組みの評価をぜひやって欲しい。 例えば、高効率給湯器等の補助金でざっと計算してみると、20年間使用できると仮定すると、二酸化炭素削減1 tあたり約4,000円から5,000円程度の補助金を使用している。この数字を見ても、他の効果的な取り組みが必要だと思う。
F 委員	住宅用太陽光発電設備補助金で、二酸化炭素削減1 tあたりの単価はどうか。
B 委員	20年使用できると仮定すると、高効率給湯器等の補助金と同じような金額である。
J 委員	補助金は直接的な設備導入促進の手段であるが、導入できる人は限られている。導入したいが資金がない人、導入意欲がない人へどう働きかけ、どのような仕組みをつくるのかも必要である。限られた予算をどう効果的に活用するか考えていただきたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	現在は、募集開始の案内が中心だが、定期的に導入のメリットなども含めて情報発信するなど、PRをしっかりとやっていきたい。
J 委 員	環境教育ボランティア講座を、幹事会が企画運営しているのはすばらしい。大阪府では環境教育等促進法に基づく行動計画を策定予定であると聞いている。法律では、NPO等との協働が重点的に取り組むべき内容となっているが、市ではどのように進めているのか。
事 務 局	講座開催の予算としては特にはない。PRや会場確保に際して可能な場合は協力をしている。幹事会から全ボランティアに声かけをしてもらっているが、活動いただけるのはその3分の1程度である。
F 委 員	講座の受講者は、どの程度か。
事 務 局	延べ100人程度は受講いただいている。
C 委 員	“まちの姿3”について、今後はどう展開していくのか。
事 務 局	現在、環境政策課で行っているのは、電気自動車の普及啓発程度だが、他部署では市の総合交通戦略を策定作業中であり、その基本方針の1つに「自動車に依存しない人にやさしい安全な交通環境の確保」が挙げられている。
A 委 員	現時点での市内の電気自動車など、エコカー登録台数などは把握できるのか。
事 務 局	把握していない。
J 委 員	電気自動車の普及のためには、インフラ整備が重要である。急速充電設備などの設置はどうか。
事 務 局	市では特に補助金等はないが、大阪府が補助金など主導的に実施しており、市としてもその周知などを行っていきたい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
K 委 員	エコな移動に関しては、カーシェアリングやエコ通勤なども挙げ ていたと思うが、そのあたりも市の総合交通戦略に含まれるのか。
事 務 局	今年度は基本方針的なものを検討しており、来年度以降、具体的 施策など中長期的な取り組みについても検討されると聞いている。
F 委 員	立命館大学大阪茨木キャンパスは、どこに関連するのか。“まち の姿4”か。
事 務 局	面的なまちづくりということで、“まちの姿4”に含まれる。
J 委 員	計画の進捗状況は公表するのか。
事 務 局	本市の環境への取り組みを年次報告書としてまとめている「いば らきの環境」などで公表していく。
A 委 員	資料2で、“まちの姿2”と“まちの姿4”にLED照明の導入 が分かれているのは、なぜか。
事 務 局	“まちの姿2”掲載事業は、今年度は主に太陽光発電導入の意味 合いがある補助金制度であるのに対し、“まちの姿4”掲載事業は 市自身が導入したもので、その区分によって分類した結果である。
C 委 員	生ごみ処理機について、電気を使わない形式が増え、電気式が減 っているが、その理由は何かあるのか。
事 務 局	電気式の方が高価であることも理由の1つだと考えている。市の 補助制度でも、電気式は上限2万円、非電気式は上限5千円として いる。
	(2)その他
	・今後の地球温暖化対策実行計画の推進体制について、事務局よ り説明

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
F 委 員	部会は3～4人の委員だということだが、どう運営するのか。「関係者の出席」とは、どのようなものか。
事 務 局	環境審議会の委員の中から、環境審議会会長が指名する委員3～4人で部会を構成する。本委員会で関わっていただいているエネルギー事業者などは、「関係者の出席」というかたちでお願いしたい。
F 委 員	プラットフォームは、いくつぐらい設置するのか。
事 務 局	まずは、意見や情報交換できる場を設置し、具体的な取り組みを行う実行部隊は1～2つ程度を考えている。
K 委 員	プラットフォームは、誰でも参加可能か。市が指名した者のみか。
事 務 局	最初は、顔の見える方からはじめ、少しずつ参加者を広げていきたい。
F 委 員	推進部会で取り組み内容を決めた後、すぐにプラットフォームに投げて進めるのか。それとも、推進部会で細部まで決めてからプラットフォームに渡す、実行部隊という位置づけになるのか。
事 務 局	どちらが上ということではなく、プラットフォームは様々な意見やアイデアを出し、推進部会は専門的な立場から意見を言うといったことを考えている。
H 委 員	本委員会としては、今日が最後になるのか。
事 務 局	そう考えている。
B 委 員	プラットフォームという組織は、条例などで位置づけられたりしない、インフォーマルなものか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	取り組みが進んでくれば、位置づけを考える必要が出てくる場合もあるが、現在は市民団体や事業者等と気軽に意見交換ができる、ゆるやかな場と考えている。
F 委 員	最初から誰でも参加できる形式であれば、議論が発散してしまわないか。ある程度方向性が固まった段階で、多くの方に参加していただく方が良いのではないか。
K 委 員	今回、審議会の部会に推進体制を位置づける理由は何か。これまでの議論の経過も活かしてもらえるか、新しい体制でうまくいくか不安もあるが、この委員会では不具合があるということか。
事 務 局	環境審議会には、これまでの経過等も随時報告をしており、大きい環境という枠組みの中で、地球温暖化対策実行計画の進行管理を行うことが望ましいと考え、部会という形をとることになった。
F 委 員	プラットフォームでの生の意見を、3～4人の審議会委員で全て交通整理するのは難しい。プラットフォームの中のコアな部分で交通整理を担ってもらう方法もあるが、間に何か入る形が良いのでは。
事 務 局	プラットフォームの役割や構成は、もう少し検討させていただく。
D 委 員	地球温暖化対策実行計画は、2050年に向けた内容だが、環境基本計画はそれより短いスパンの上位計画であり、微妙な感じがする。部会は、どのような期間活動するのか。
事 務 局	平成25年度から、地球温暖化対策実行計画の進行管理を行う。地球温暖化対策実行計画は中期目標を2020年としており、次期環境基本計画の策定にあたっては、地球温暖化対策実行計画の関係からも、環境審議会委員に意見をお願いしたい。
F 委 員	資料3の体制は、これで決定しているのか。

